

第68回関西平和美術展を成功させよう

想いを伝えて
平和の壁に花を輪を

国労大阪会館での第1回実行委員会

第68回関西平和美術展の第1回実行委員会が3月10日(日)午後2時から国労大阪会館で開かれ、16名が参加しました。主催者団体で実行委員会結成を呼びかけた関西美術家平和会議事務局から応諾はがきなどによる実行委員参加状況の報告があり、その後、実行委員会を発足し、委員長に坪井功次氏、事務局局長に山田泰子氏を選出しました。

第68回平和美術展に向けて
実行委員長 坪井 功次
関西平和美術展は、戦後日本がふたたび戦争の道を歩まないとの強い思いで、美術家が集まり結成され、

今日まで社会の様々な動向を反映した作品を生んで来ました。今、民族紛争・難民・貧困問題で世界は揺れ動いています。国際的に広がりつつある核廃絶の声を嘲るように、経済摩擦と軍備増強を推し進める自国主義が世界に亀裂をもたらし、国内では政府与党が嘘と隠ぺい、欺瞞と横暴で民主主義に背を向け憲法改悪を目論む。この危機的な状況に多くの出品者の方が平和を守る活動で多忙だと思えます。決して今を戦前にしてはなりません。私達は創作者として作品を通じて平和を守る事も大切な活動です。芸術には理屈を超えて人の心に訴える力があります。

この時代だからこそ、それぞれなりに力を尽くしたい想い溢れる作品で「平和の壁」を埋め尽くしましょう。

第1回実行委員会から
事務局局長 山田 泰子

3月10日、第68回関西平和美術展実行委員会が発足しました。昨年とはほぼ同じ、33名で今年の平和美術展の準備を始めます。

近年、台風が会期中に来ています。美術館からの通達で大阪市内に午前7時現在暴風警報が発令された場合は臨時休館となり、搬入・搬出などの作業は翌日になります。その様な時には手分けして連絡を入れます。それぞれ、忙しい時こそ工夫して作品にも取り組み、68回展が成功するように実行委員は力を出し合ってくださいと思っています。

第68回
関西平和美術展
2019年
7月30日～8月4日
大阪市立美術館
搬入 7月28日(日)
搬出 8月5日(月)

お知らせ

出品申込みは7月6日(土) 締切迄
平美展への出品は事前申し込み制となっています。締切までに出品申込みハガキに必要事項を記載し投函すると同時に、出品料を郵便振込で送金してください。ご協力よろしくお願いします。

第68回関西平和美術展実行委員会
(実行委員33名)
(事務局)
事務局局長 山田 泰子
事務局員 伊藤美恵子
(絵画) 尾崎文子(絵画) 川口 政治(絵画) 川島恵美子(絵画) 川村芳比路(写真) 佐木 義輝(絵画) 三田耕之(絵画) 西念秋夫(陶芸) 篠瀬和行(絵画) 瀬藤みや乃(絵画) 玉井 質(写真) 坪井功次(絵画) 板尾惺(絵画) 中田進(絵画) 西村順子(絵画) 野村和弘(絵画) 平山正和(絵画) 前田 尋(ぎり絵) 榎家雄司(絵画) 松下ふみ代書 松原成光(絵画) 松本稔(絵画) 目黒郁朗(絵画) 本松進一(絵画) 数内 敬三(絵画) 山内比呂子(絵画) 山岸稔(絵画) 山口隆夫(絵画) 山田泰子(書) 山中成子(絵画) 矢野林子(絵画) 米 山勝義(絵画)
◇代表 三田耕之
◇実行委員長 坪井功次
伊藤・山内

○事務局員 山田 泰子
局長 目黒 松下 〇会計 篠瀬 矢野 〇出品者対策 尾崎 川島 川村 玉井 山岸 米山 〇車両搬入・業者対応 浅野 川口 山岸 佐木 目黒 〇広告宣伝依頼 浅野 川口 榎家 篠瀬 〇マスコット等 〇宣伝 〇松本 目黒 〇各種団体宣伝 浅野 佐木 川口 〇中田 〇通信物管理 山岸 〇平和運動 〇原水爆禁止世界大会代表派遣 佐木 山中 〇美団連 〇数内 〇広報 平美新聞発行 板尾 松原 松下 〇吉田 〇ホームページ 篠瀬 〇ポスター作成 坪井 山内 〇その他印刷物依頼 篠瀬 山田 〇目録名簿 〇名札 〇山口 〇松下 〇保管 〇運用 〇目黒 〇山田 〇会場交流会 伊藤・山内

関西
平
美
新
聞

2019年5月

第29号

関西美術家平和会議
広報部発行

事務局 / 〒530-0054
大阪市北区南森町2-2・14
TEL 080-8516-7205
FAX 06-6311-1238

繋ごう 平和な未来へ

(はがきの一言メッセージから抜粋)

目黒 郁朗

つないで来た、広げて来た、苦しいけれど頑張ってきた。深めて来たが：「今は」「自分達は」だけでは平和の未来はない。私達の今はここに繋げるのか…

中井 美智子

一年一年が大切な年になってきます。出品できることはとても嬉しいことです。皆さんの作品を拝見できるのが楽しみです。

石川 響司

平和の取り組み関係等で忙しく出品作の制作だけで精一杯で、出品だけは続けていたただこうと思っています。

松井 美保子

実行委員に参加する機会もなく、出品だけは一年も休まず続けて来させて頂きました。鑑賞してくれる若い人たちが一人でも多く平和の意義を知ってくれ、後に続いてくれますように願います。

石田 和之

今年二回目ですが昨年同様「書」を予定しています。妻も出す積りです。

尾崎 文子

小さな力ですがよろしくお願ひします。

宮脇 達

平美展への出品は大きな刺激になってます。栃尾さんが少しお元気になるれたようにでなにより嬉しいです。

行成 さや子

手伝えなくて申し訳ありません。絵画サークルの皆さんを誘ってなるべく複数で平美展に出品できるように頑張りたいと思います。

松原 成光

暖かくなってきたのに筆は全く進まず悶々の日々です。クソッ。

三田 耕之

平和は理想だけでなく人類にとって大切なものです。

鵜山 睦子

出品させて頂くだけで精いっぱいです。年一回の大作出品です。

西角 英郎

障害のため何もできませんが出品させて頂きます。

平山 正和

時間が取れず参加できませんができるだけ協力します。

矢野 浩

毎年平美展への一点だけの出品は続けたい。

出品者訪問

川島恵美子さんを訪ねて



「どうぞ」と柔和な笑顔で朝潮橋にほど近いご自分の画廊（ガレリア・リバー）へお招き下さった。春の風の中、工度吉田利次氏のデッサン展の会期中。お生まれは昭和5年10月6日の88歳。平美展との関わりは第7回展頃から出品。鹿児島での空襲下を生き延びられ女学校時代、桜島に感動。買ったばかりの油絵の具で一気にベニヤ板に初めて油絵を描く。美術部で長谷川先生と出逢う。又絵の先生でもある大泉米吉氏と出逢う。その後大阪へ転職する中で夫と出会い結婚。姑も絵に理解があり、大泉先生の絵画教室の助手をしながら平美展にも出品。そこで関西平和美術展のリーダー的存在

小さな美術館めぐり

堺アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館）

アル・ヌーヴォーの代表的画家アルフォンス・ミュシャの初期から晩年にわたる作品を展示、さまざまなテーマごとに彼の創作活動を紹介している。花をモチーフとした装飾をまとった婦人像の絵は、誰もが一度は目にしたことがあるでしょう。私は花をモチーフにした絵を描いているので、図案化されたおしゃ



ミュシャ館正面

（中村 宏子記）

堺市堺区1田出井町1の2の200ベルマージュ堺
式番館電話072（222）
5533 ◆アクセスJR阪和線堺市駅下車 徒歩3分
◆入場料 一般500円

在だった吉田利次氏に師事。安保闘争や自然災害に、夫の病死等々人生波乱万丈も前向きに生きる。作風は現実をありのままに捉えるリアリズム（写実主義）の姿勢をずっと貫き、また銅版画にも魅了されておられた。長年の夢は、孫達に伝え

（吉田朋子記）

自然をありの^{まま}俣に

野並 允温 (絵画)



母がほめ上手だったお蔭で、私は絵を描くのが好きで得意になれた。小

絵を描くことは人間の本能的なものだと思う。幼児の頃はたまたまやめなさいと止められても描き続けるのだ。人類が言葉を持つ以前の記録は絵でありそれが文字に変化した歴史が証明している。

私は学校への社会的な経験者の協力で絵画の指導活動に参加している。小学校一年生はほとんどの子供が描くことが好きだと手上げる。学年が上がる度に嫌いと好きな子が少数になって残念である。他人と比較や通信簿に悪い点をつけられて嫌いになるのだ。

学校六年生の時、「プロになれる」と褒められた事が忘れられず。40歳から朝日カルチャーに週4教室も通い画家の道を志した。その程度の学習だから、自然を有りの俣、画布に移すことしかできない。趣味の延長線上にある画家である。油彩やアクリルでヒマラヤなど山岳中心の画風が一

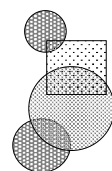
「一枚の絵」に導かれて

高田 眞佐子 (版画)

できないことが多すぎる子だった。音痴だったし、

運動能力皆無だし、母は音痴だけでも、何とかしてや

変したのは土佐和紙の出会いである。どうさ引きの麻紙に透明水彩で描く点描画風の細密画が私の個性を引き出してくれたと喜んでい



私と創作

りたいと歌唱指導してくれたいことがある。しかし、父由来の音痴は、矯正不能だった。そこへ父が助け舟。歌わなかったらええねん。やりたいことだけしてたらええねん。母は諦め上手だったので、指導は止み、私はやりたいことII絵を描くことだけをしてやがて、古希にIIそれで中学、高校と美術部にいた。高校生の頃ベトナム戦争が泥沼化。米軍が介入して、一層悲惨なことになっていった。連日報道される映像にやりきれない思いがしたし、怒りを作品にしたいと思い始めていた。そんな時、美術館であの絵に出会った。幼児を抱き怒りに震えるベトナムの母子像だった。一見して、作者の反戦の思いが伝わってくる絵だった。私は感動しこんな絵が描けるように



なりたいたいと思った。以来あの絵は忘れられない、わたしにとつての「一枚の絵」なのに作者の名前さえ記憶していなかった。そして一昨年「吉田利次生誕百年記念」回顧展が川島先生のギャラリーで開催されていて、あの絵が吉田氏の作であったことを知った。私の「一枚の絵」に再会したのだ。「吉田先生」のことは川島先生はじめ色々な方から、聞いていた。弱い立場にいる民衆の心に寄り添い、その悲しみや怒りを作品になさった方、できるだけ現場に行き膨大なデッサンをなさった方。平美の結成にも尽力なさったか。私など「先生」の足元にも及ばないが、せめて、伝えようとなさったものを「一枚の絵」と共に受け継いでいきたいと思う。

平美ホームページ
担当者日誌 ⑫

「読者の広場」では出品者の投稿も掲載しています。中川忠司さんの旅行記「メキシコ・キューバ39日間スリッパ旅行」では、「満70歳になり、古希記念に妻と二人、2年ぶりの海外スリッパ旅行を計画する。キューバを紹介するテレビの影響もあり、観光客が殺到している社会主義国家キューバが、面白そうだと思った。」と書かれて、キューバを中心とした旅行の様子がいきいき描かれています。また、目黒郁朗さんの訪問記「La Residencia (Artist in Residence 青い家)へ行く」では、「南山城村は京都府の南端にあり、奈良・三重県境に接している。La Residenciaは、古民家を改造した展示ギャラリーで……」と書かれて、共に読み応えのある内容です。ご投稿やお教え頂いた情報等をそのまま紹介いたします。平美展の鑑賞者や出品者の交流の広場になるよう願っています。(篠瀬記)

元号は
令和です



2019(令和元年) 2 TOKUGA-HAN-AI



合評会に見入る仲間達



スケッチをする参加者



春のスケッチ会 風薫る画廊街 老松通り

4月28日 (日曜日)

参加者は老々男女21名で10年ぶりに参加した方もいました。ある会社のOBが5人ほど参加していましたが、会員の個展を見に行く人もあって、合評会は早々に切り上げました。

(写真共に栃尾記)

平美の 歴史②

「平美友の会」結成

栃尾 惇

たまたま平和会議の「秋の写生会」お誘いを受けて、写生会に参加し、当時西梅田に平美事務所があり、職場も近くにあり時々出入りするようになったのが平美との出会いかな。1965年頃からでしょうか、絵を描き始めたアマチュアの作品も受け付けるようになり、「平美展」の鑑賞者を中心に美術愛好家を組織するために「平美友の会」が組織され、平美展への出品勧奨や美術展鑑賞が積極的に行われました。また、この頃は裁判所や大阪ガス、



奈良にて平美友の会

国鉄、電電などに職場の美術サークルがあり、大阪でも「職場美術展」の動きも出てきました。しかし、平美会員の間では「素人の作品と一緒に並べられるか」といった意見もあったようですが、

平美友の会では、事務局が設置され、機関紙「平美友の会ニュース」が発行され、平美の指導と援助をうけて自主的に写生会や鑑賞会などの行事を企画し始めて、親睦と交流を兼ねて5月の連休や年末・年始の休みに計画しました。しかし、絵画鑑賞が趣味という人から、絵を習いたい、もっと上達したいという人まで、

安藤 昇さんを偲んで

本松 進一 (絵画)



うになったのは、確か30回展ごろと記憶しております。

平和美術展で長年奮闘されてきた安藤昇さんが、半年にわたる闘病生活の後に昨年6月満88歳で亡くなられました。安藤さんは大阪地方裁判所の書記官として勤められ、裁判所の中で絵画サークルを作り、平美の吉田利次さんを講師に招いて活動されました。平美展に出品されるよ

ささまざまな要求を持った人達をまとめていく運営上の未熟さと、事務局の中心メンバーも結婚・子育ての時期に入り活動参加が困難になり、次第に活動力が衰えました。

*編集後記

今月一日ごろ日本中大騒ぎ、それを横目で四人が編集作業、「内容ある平美新聞になると」一人一や二や旨い酒に酔いました。

夏の平美展への作品づくりに日々お楽しみが苦勞かご各位もつと頑張り。次号への寄稿にもご協力下さいませ様。 (成光記)

(再録参考資料)

「関西平和美術展50年史/関西美術家平和会議との出会いと平美友の会 栃尾 惇」から